

会 議 録（要旨）

会議の名称	令和6年度第2回戸田市福祉施策審議会
開催日時	令和7年2月14日（金）午後2時00分 ～ 午後3時30分
開催場所	戸田市役所 大会議室C
出席者	<p>会 長：田 嶋 英 行</p> <p>副会長：松 山 由 紀 委 員：大 坪 美 元</p> <p>委 員：佐 藤 静 子 委 員：河 合 由美子</p> <p>委 員：染 川 智 行 委 員：早 船 正 彦</p> <p>委 員：河 野 本 生 委 員：磯 部 恒 子</p> <p>委 員：今 井 教 雄 委 員：櫻 井 聡</p>
欠席者	なし
事務局	<p>戸田市福祉保健センター</p> <p>木村所長、野口担当課長、細川副主幹、廣居主任</p>
議 題	<p>（1） 戸田市重層的支援体制整備事業への移行準備事業について</p> <p>（2） その他</p>
会議結果	別紙のとおり
会議資料	<p>【次 第】</p> <p>【資料1】 戸田市重層的支援体制整備移行計画（案）について</p> <p>【資料2】 重層的支援体制整備事業の概要等</p> <p>【資料3】 ケアラー支援に関する取り組みの実施状況について</p>

(会議の経過)

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
事 務 局	<p>■開会</p> <p>司会及び開会の挨拶、資料確認</p>
事 務 局	<p>■議事</p> <p>(1) 戸田市重層的支援体制整備事業への移行準備事業について</p>
会 長	<p>資料1、資料2に基づき説明。</p> <p>重層的支援と地域福祉計画の関係を伺いたい。移行準備計画は地域福祉計画に組み込まれるのか。</p>
事 務 局	<p>移行準備計画は単独の計画となる。令和8年度からの重層的支援体制実施計画についても単独の計画とし、令和10年度の地域福祉計画の改定に合わせ内包する予定である。</p>
会 長	<p>ケースワーカーが配置されることになるが、重層的支援の窓口を新たに開設するのか。また、何名の配置を想定しているか。</p>
事 務 局	<p>一次相談は既存の窓口が受け、そこから複雑化・複合化したケースが重層専任のケースワーカーにつながる仕組みである。配置は1名を予定している。</p>
委 員	<p>ケースワーカーの役割について伺いたい。具体的にどのような仕事内容となるのか。</p>
事 務 局	<p>複雑化・複合化し、一つの部門で対処が難しいケースを既存の窓口から引継ぎ、各窓口と連携しながら、アウトリーチ等の支援を行う役割である。</p>
委 員	<p>非常に理想的な仕組みであると思う。医療従事者としても、複合的な問題を抱えるケースについて、中心的役割を担う窓口があるというのは</p>

委員	<p>心強い。</p> <p>一つの窓口がすべて受け止めるのではなく、どの窓口相談しても、漏らさず対応できる仕組みを検討しているということで、民生委員や地域の医療機関、関係機関にも、本事業を周知していく必要があると考える。</p>
委員	<p>福祉の問題の中には虐待に関する事例も含まれている。一例として児童虐待がある。児童虐待は主に児童相談所が担当しており、これは県の管轄である。重層的支援の中で虐待に特化した担当を設置する予定はあるか。</p>
事務局	<p>虐待を含む問題に対しては、要保護児童対策協議会など関係団体が連携するための会議を設置しており、既存の窓口で対応できる体制が整っている。今後は重層的支援体制のなかで、これらの窓口とより連携できる体制を作っていく。</p>
委員	<p>アウトリーチを通じた支援について伺いたい。どのような資格者の配置を想定しているか。</p>
事務局	<p>ケースワークの経験が複数年ある者の配置を想定している。</p>
委員	<p>市民の中には、高齢者の問題は高齢者部門、こどもの問題はこどもの部門と属性ごとに決まった窓口でしか相談できないと誤解している人がいる。長期にわたって解決の糸口がみえないまま、家庭内で問題がとどまってしまうようなケースもあり、個別の制度では対応が難しいと感じる。さらに、複数の部署が支援に係る場合は、どの部署がどこまで支援を実施するか分かりにくく、対応が難しい。本事業の仕組みに期待している。</p>
会長	<p>社会福祉協議会のCSW（コミュニティ・ソーシャルワーカー）と重層的支援のケースワーカーの住み分けを伺いたい。</p>

事務局	C S Wの役割は変わらず、必要に応じて重層的支援のケースワーカーと連携する仕組みである。
委員	民生委員として地域で活動していると、思いもよらないところで問題を把握することがある。また、特に若い方は悩みを打ち明けてくれない傾向があると感じる。気軽に悩みを相談でき、みんなで支えていくことができる仕組みが必要だと考える。
委員	「重層的支援」という言葉は、市民に分かりにくいと感じる。高齢者部門・こども部門といった属性別の会議は、既設のものがあるのか、また、学校との連携も必要であると感じるがどうか。その他、言葉の壁がある外国籍の方へのサポートも必要であると感じた。
事務局	属性別会議は各所管課で設置済みである。そのうえで複合的な問題は新たに「重層的支援会議」を開催し、対応することとなる。また、ご意見のとおり、教育部門にも本事業について周知・説明を実施していきたい。
委員	精神疾患の方が施設退所後に苦労されていると聞く。地域で支えるための仕組みが必要では。また、そういった方が気軽に相談できる居場所があると良い。
事務局	市では福祉サービスとして、施設から退所された方の地域生活支援を進めている。また、社会復帰を目指す方の居場所としては、重層的支援の「地域への参加支援」を活用したいと考える。
委員	市民にとって公的機関への相談は心理的ハードルが高いため、アウトリーチの取組は効果的であると感じる。また、従来の窓口で対応できる問題と、重層的支援が必要な事例を区別するのが難しいと感じた。どのケースをどちらが扱うか、基準はあるのか。
事務局	ケースの区分けは、移行準備を行う中で検討していく。

<p>会 長</p>	<p>ケースワーカーの業務は負担が大きいと考える。DXを活用し、業務負担を軽減する運用方法を検討することが望ましい</p> <p>■その他</p> <p>(2) その他</p>
<p>事 務 局</p>	<p>資料3に基づき説明</p>
<p>会 長</p>	<p>何か意見はあるか</p> <p>なし</p> <p>■閉会</p>